

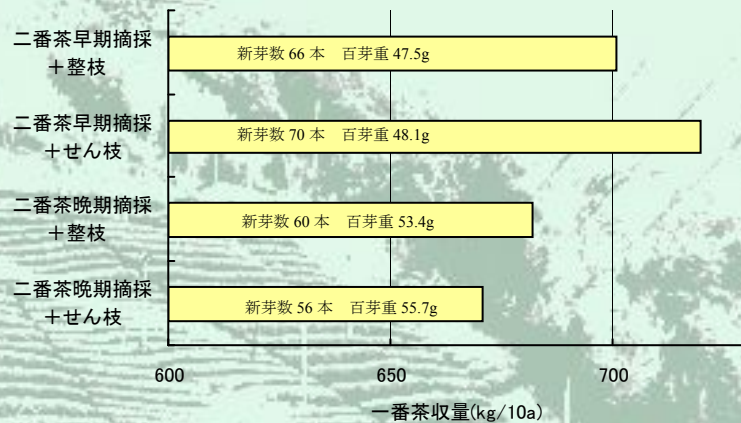
二番茶後のせん枝方法

[研究のねらい]

- ・乗用型摘採機の普及に伴い、二番茶後に葉層が無くなる程度のせん枝をして樹高の上昇を抑える栽培方法が増加してきた。
- ・一方、中山間地の有機栽培では夏季の病虫害忌避のため、また温暖な地域では夏季の徒長枝を抑制するために二番茶後のせん枝が恒常的に行われている。
- ・しかし、二番茶後にせん枝した茶園は、秋整枝後の葉量と一番茶新芽数の極端な減少や干ばつなどの被害助長が問題視されており、収量面で安定した栽培技術でないといわれている。
- ・そこで、秋整枝後の葉層が充実して翌年一番茶新芽数の極端な減少が起こらない二番茶後のせん枝方法について検討する。

[研究の成果]

- ・二番茶後に整枝した茶園では、二番茶摘採の早晩が秋季の樹冠形成に及ぼす影響は大きくないが、二番茶後にせん枝した茶園では、二番茶摘採が早いと秋整枝位置から6cm下までの範囲の葉重と秋整枝位置付近の芽数が増加する。
- ・二番茶後のせん枝は、翌年一番茶の新芽数が減少するが、二番茶を早期に摘採してせん枝した茶園では、新芽数の極端な減少は起こらない。



二番茶摘採の早晩と整せん枝の組合せが翌年一番茶に及ぼす影響



写真: せん枝処理後の枝条



写真: 二番茶後せん枝処理(手前)